



TITLE:

はじめに

AUTHOR(S):

柴田, 一成

CITATION:

柴田, 一成. はじめに. 京都大学大学院理学研究科附属天文台年次報告
2004, 2003年(平成15年): 1-1

ISSUE DATE:

2004-09

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/172293>

RIGHT:

1 はじめに

平成15年度は、国立大学の法人化前夜のあわただしい年でありましたが、当天文台にとっては、大きな二つのプロジェクトをスタートさせた記念すべき1年でもありました。

14年2月に補正予算化され、15年3月に飛騨天文台に設置された太陽磁場活動望遠鏡については、15年6月のファーストライトを経て、10月15日には長尾真前京大総長をはじめ多くの方々の参列を得て、完成披露式典ならびに祝賀会が開催されました。また、15年3月の補正予算で認められたドームレス太陽望遠鏡の塔体冷却システムの改修工事については、5月より開始され、12月に無事に完成し、ドームレス太陽望遠鏡も新たな再出発を果たしました。これらの実現にご尽力いただいた文部科学省、京都大学関係者をはじめとした多くの方々、さまざまな新規開発を含む世界最先端の望遠鏡と付帯設備システムの完成にご尽力いただいた多くの会社の方々に、改めてお礼を申し上げます。

我々もこれらを駆使した新しい太陽活動研究に、いよいよ胸躍る気持ちで立ち向かおうとしていますが、国内はもちろんのこと世界の太陽研究者にもこれらの使用の便を図り、協同して太陽活動のメカニズムを解明していきたいと考えております。また、大学院生・学部学生の教育研究にも十分活用して、太陽活動研究を基盤とした活動的宇宙物理学の教育研究拠点として、更に発展させて行きたいと考えております。

さて、この平成16年3月で、私は台長の任務を終え、4月から柴田一成教授にバトンタッチを致しました。平成8年から4期8年間務めさせていただきましたが、幸い多くの皆様方のご指導、ご支援、ご協力を得て、いくつかの懸案事項の実現や新規プロジェクトの開始に携わることが出来ました。この場を借りてお礼を申し上げます。

非常勤を含めた現在のスタッフの約80%がこの8年の間に入れ替わったり新たに加わったメンバーであることを見ても分かりますように、当天文台の教育研究活動は流動・活性化していると云えます。今後若い力がそれぞれにより深く、より広く進化しながら互いに協力して、新しい発展を担って行くものと思いますので、皆様方の更なるご指導とご支援をお願い致します。

平成15年度 台長
黒河 宏企

平成16年4月より黒河前台長よりバトンを引き継いで附属天文台長に就任しました。黒河前台長は台長在職期間の8年間に、新しい太陽磁場望遠鏡の建設、長年の懸案事項であったドームレス太陽望遠鏡の塔体冷却システムの改修工事を実現し、また、私をはじめとする新たなスタッフを続々と天文台に招くなど、大きな功績を残されました。ここで改めてその功績とご努力に感謝したいと思います。

附属天文台はこれから激動の時代を迎えます。最大の課題は、現在宇宙物理学教室の光赤外グループが中心になって進めつつある岡山新望遠鏡計画の実現です。これは国立天文台岡山観測所との協力の元に口径3 m級の光赤外望遠鏡を建設することによって、京大附属天文台の観測的研究の前線を突発天体、恒星、銀河などの光赤外観測に拡大しようというものです。また、この計画を実現することによって、海外適地での光赤外観測への足がかりを作り、得意の太陽観測では海外への進出も含めてさらなる発展を目指す、というのが附属天文台の今後5年－10年の課題です。関係の皆様方のご支援ご協力をお願い申し上げます。

平成16年度 台長
柴田 一成